

# 佐賀市内小中51校の電力

# 市清掃工場の発電利用

今夏から

佐賀市は今夏から、市内の小中学校51校で使用する電力を市清掃工場のごみ焼却熱による発電で賄う。新年度に市全体のごみ処理統合がほぼ完了し、発電量が増加。特定規模電気事業者(新電力事業者)との契約に切り替え、年間約7千万円のコスト削減につながる」とともに、子どもたちの

## 清掃工場発電電力の地産地消イメージ

佐賀市清掃工場

新電力事業者



環境学習にも役立てる。

市清掃工場は24時間稼働で、焼却炉の熱で発生させた水蒸気でタービンを回し、年間約2500万キロワット時(2012年度)を発電している。

清掃工場と隣接する市健康運動センターで優先的に使い、余った約520万キロワット時は九州電力に売電してきた。

試算では、新年度はごみの受け入れ地域が拡大し、発電量が増える。市は売電先を切り替え、市内53の小中学校のうち、既存の電力網で送電可能な51校で使用する電力を新電力から購入する。学校の年

間消費電力は約600万キロワット時で、「ごみ発電」による売電分が少し上回る見通しという。

新電力事業者は、電力の需給管理だけではなく、ごみ発電が学校で使われていることを子どもたちが実感できるように地産地消の仕組みの「見える化」を可能にするシステムも導入。インターネットを利用して、清掃工場からの送電量をリアルタイムで確認できるようにする。

市は清掃工場がある周辺住民に、ごみ統合の効果は「教育・福祉に還元する」と説明してきた。秀島敏行市長は「コスト削減につながる策でもあり、いい方策。ただ、ごみ減量化の視点は欠かせないの」で、市民には「ごみ減量化や適正な分別を引き続きお願いしていきたい」と話す。

(川崎久美子)